

## 念仏踊り（地域のお宝）の保存と継承

指導教員 北陸大学 講師 伊藤梢  
教授 福江充

参加学生 3年 興石啓 石黒有加 竹内歩 宮崎良菜 中村菜月  
2年 新家莉子 松本明日風 和田彩花

### 謝辞

三谷文化保護協会、三谷公民館、三谷地区および東原町の皆様には、活動中大変お世話になりました。活動へのご協力に深く感謝申し上げます。

# 念仏踊り（地域のお宝）の保存と継承

地域課題発掘枠No. 2 3

北陸大学 福江・伊藤ゼミナール

（輿石啓・石黒有加・竹内歩・中村菜月・宮崎良菜・新家莉子・松本明日風・和田彩花）

連携団体：三谷文化保護協議会（金沢市）

## 活動目標

三谷地区東原町はこの30年で人口が半減し、少子高齢化も伴って地域に根ざした信仰を基盤とした祭礼や伝統芸能の持続が困難となっている。東原町の念仏踊りは金沢市歴史文化遺産（通称：地域のお宝）に認定された特色ある地域文化である。本研究は、この東原町に長く受け継がれてきた東原念仏おどりの継承の現状を明らかにし、抱える問題の解決の糸口を地域の方々との協働によって見出そうとするものである。



## 活動の目的

- 「知る」一向一揆に源流を持つ地域の信仰と念仏踊りの起源について郷土史家から学んだ上で、地域の人々への聞き取り調査を元に継承の現状を把握する
- 「記録する」毎年の盆踊りで踊られてきた念仏踊りへの参与観察と画像・動画での記録
- 「発信する」SNS用PR動画・踊り方のマニュアル作成

## 活動の内容（調査のみ抜粋）

- 7月13日 三谷公民館にて郷土史家による歴史講座参加
- 7月25日 三谷公民館にて念仏おどり練習会参加
- 8月1日 念仏おどり練習会参加・代表者インタビュー
- 8月3日 三谷地区夏祭り参加および動画撮影
- 11月16日 東原地区集会所にて地域住民4名に聞き取り調査
- 12月15日 東原地区朝市訪問

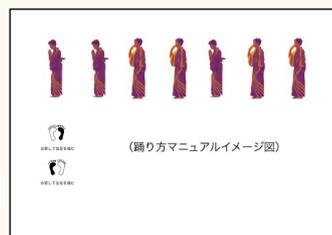
## 活動の成果

### 「知る」「記録する」活動から見える地域の課題

聞き取り調査と参与観察から明らかになったことは以下の通りである。東原念仏おどりは一時途絶えていたが、1970年代に学術調査を背景に復興し、以来「上演」機会が増えたことで舞台向けのフォーメーションや歌のアレンジを加えながら再普及が進められた。しかし、人口減少により東原町内での夏祭りは平成初期に廃止され、現在は三谷地区全体の盆踊り大会で継承されている。講習会や本番の観察では、高齢者が主な参加者であり、若者の姿はほとんど見られず、踊りの輪が広がりを見せることもなかった。このことから、若い世代が踊りの輪に加わるきっかけ作りが大きな課題であることが明らかとなった。

### 課題を踏まえ「発信する」

東原町に若い世代が少なく、踊りの継承が困難となっているが、人口減少を根本的に解決するのは難しい。そこで、三谷地区全体に継承範囲が拡大していることを活用し、盆踊り大会にやってくる帰省中の若者が興味を持ち「踊ってみたい」と思えるきっかけを作る必要があると考えた。そのために、若者がアクセスしやすいSNS向けのPR動画を作成し、紙媒体で配布でき、かつ二次元バーコードで動画を確認できる踊り方マニュアルを用意する取り組みを進めている。PR動画は盆踊り大会で撮影した記録動画を基に縦長形式で1分程度に編集し、CD音源を若者が馴染みやすいようにアレンジしたものを使用している。これらを通じて発信力を高め、踊りの輪を広げることを目指している。



## 今後の活動計画

三谷文化保護協会では東原念仏おどりの上演機会を今後も増やしていく予定である。継承の担い手の範囲も東原町外に拡大していることから、初めて踊りに触れる人や盆踊り大会で年に一回しか踊る機会がなかった人々も今後継承者となることを期待されるため、上述の動画および踊り方マニュアルを活用し、継承の一助としたい。

## 1. 活動の要約

本プロジェクトは、過疎や少子高齢化によって地域文化の継承が困難となっている現状を踏まえ、金沢市東原町に伝わる伝統文化「東原念仏おどり」の継承の問題点を明らかにし、地域住民と協力して解決策を模索することを目的とする。活動では、地域の信仰や念仏おどりの起源について学ぶとともに、盆踊り大会や練習会の観察・記録を行い、踊りの現状や課題を把握した。調査の結果、踊りは1970年代に復興を遂げたものの、人口減少と高齢化により若い世代の参加がほとんどなく、踊りの継承が危ぶまれていることが明らかになった。

この課題に対し、若者が興味を持つきっかけを提供するため、SNS 向けの PR 動画や踊り方を紹介するマニュアルを作成し、地域の伝統文化を広く発信し継承の輪を広げる取り組みを進めている。

## 2. 活動の目的

過疎や少子高齢化によるコミュニティの持続可能性の消失は、日本各地の自治体が抱える問題である。本プロジェクトが対象とする金沢市東の山間部、富山との県境に位置する三谷地区では、市街地からほど近いにも関わらず、深刻な少子高齢化と住民の減少により、地域に根ざした信仰を基盤とした祭礼や伝統芸能の継承が困難となっている。

三谷文化保護協会では、三谷地区内東原町に伝わる「東原念仏おどり」が金沢市歴史文化遺産（通称：地域のお宝）に認定されたことを契機として踊りの上演の機会を増やしている。しかしながら恒常的な踊り手の数は少なく、継承が危ぶまれる状況であることに変わりはない。

東原町は2025年1月現在で世帯数41、人口81名の集落である。金沢市「町丁別人口・世帯数」のデータによれば、東原町の人口は1995年から2024年までの30年で171名から80名へと半減していることがわかる（図1 \*データは各年度全て4月の数値）。また金沢市「町丁別・年齢5歳階級別人口」によれば、年代別の人口構成は10歳未満0名、10代2名、20代1名、30代2名、40代10名、50代4名、60代15名、70代27名、80代13名、90代7名と、非常に少子高齢化が進んだ集落であることがわかる（2024年時点）。

本プロジェクトは、この状況を踏まえて、東原町に長く受け継がれてきた念仏踊りの継承の現状と問題点を明らかにし、抱える問題の解決の糸口を地域の方々との協働によって見出すことを目的としている。

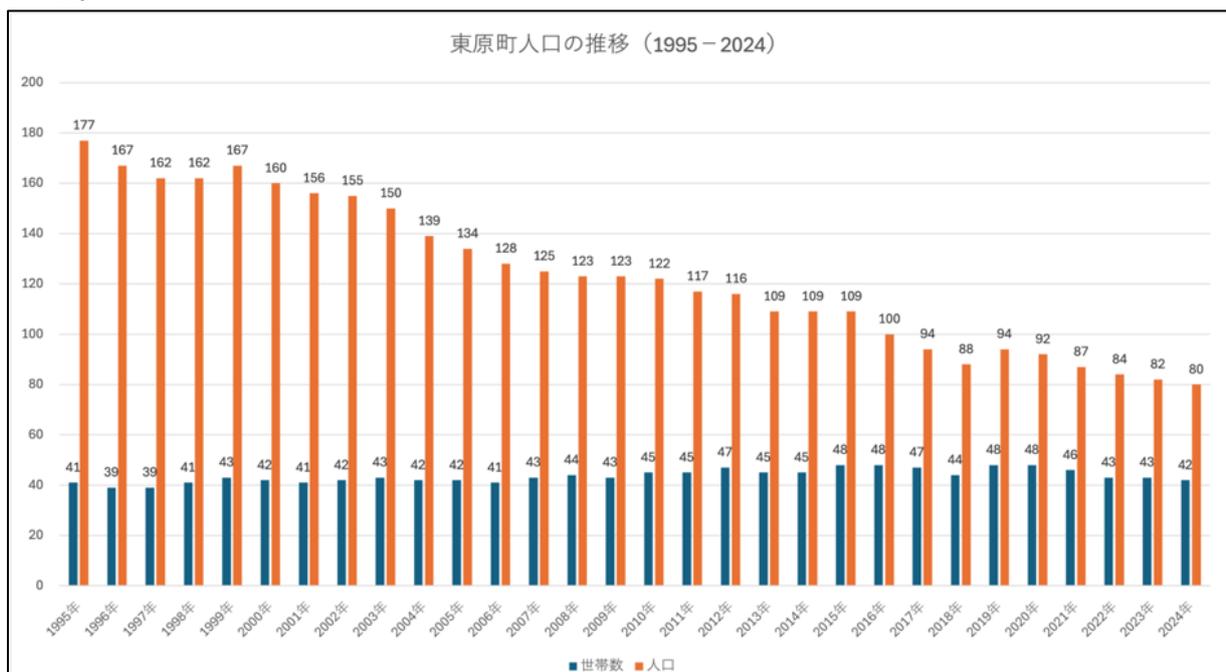


図1 東原町の人口および世帯数の変遷（金沢市「町丁別人口・世帯数」より作成）

### 3. 活動の内容

本プロジェクトでは、「知る」「記録する」「発信する」の三本柱での活動を行った。「知る」の第一段階として、一向一揆に源流を持つ地域の信仰と念仏踊りの起源について学ぶため、三谷文化保護協会代表の中田氏からレクチャーを受け、また三谷公民館で実施された歴史講座に参加した。次に、現在踊りの継承の主軸を担う東原町の林榎子氏に念仏おどりの歴史と現状に関する聞き取りを行った。さらに林氏からの紹介により、かつて念仏おどりを踊ったことがある 80 代の住民 3 名への聞き取り調査を行った。次に、毎年三谷小学校で開催されている盆踊り大会で踊られてきた念仏おどりの練習会および盆踊り大会の参与観察（「知る」）と、その画像・動画による記録を行った（「記録する」）。以上より抽出した地域の課題を基に、その解決の一助として PR 動画と紙媒体での踊り方のマニュアルを作成した（「発信する」）。

表 1 活動記録（フィールド調査および全体での活動のみ）

日付	内容	参加学生数
6月24日	中田氏より念仏おどりの概要についての講座	7名
7月9日	課題発見のためのワークショップ	7名
7月13日	三谷公民館 歴史講座 参加	5名
7月25日	盆踊り講習会 参加	2名
8月1日	踊り手への聞き取り・盆踊り講習会 参加	6名
8月3日	三谷地区 納涼盆踊り大会 参加・撮影	8名
10月20日	薬師谷公民館での念仏おどり披露 見学	1名
11月16日	東原町集会所にて地域住民への聞き取り調査	3名
12月15日	東原町朝市 訪問	2名



図 2 三谷地区納涼盆踊り大会（2024年8月3日）



図 3 東原町集会所での聞き取り調査  
（2024年11月16日）

### 4. 活動の成果

#### 「知る」「記録する」活動から見える地域の課題

聞き取りの結果、東原の念仏おどりは長らく途絶えていたが、1970年代に学術調査を背景とした復興と再普及を果たしていたことがわかった。また、復興後は「上演」という形で踊られることも多く、本来檜の周りで踊るものを舞台踊り用に新たにフォーメーションを考案したり、口伝を発掘した歌を

民謡として歌いやすいようにアレンジしたりと、復興と再普及は変化と共にあったことがわかった。

以降、東原町の中心部にある八幡神社で毎年8月の夏祭りに念仏踊りが踊られていたが、人口減少に伴い平成初期に東原町での盆踊りは廃止となる。これを残念に思った当時の三谷公民館館長が三谷地区全体の盆踊り大会で踊ることを提案した結果、現在は三谷地区盆踊り大会の定番曲となっている。

7月25日と8月1日に参加した盆踊り・念仏おどり講習会に参加していた地域の方々にとっては、やはり念仏おどりは「夏祭りでいつも行われている盆踊り」という認識のように見受けられた。他方で、講習会の参加者は高齢の方が多く、10代～20代の若者の姿はほとんど見られなかった。

本番の盆踊り大会には講習会に参加していない方も多く訪れており、盆踊りの時間になると講習会に未参加の方も盆踊りに参加していたが、やはり若い世代の参加がほぼなく、私たちと同年代の地元住民の方に出会う機会もなかった。また、踊りの輪に入る人たちは初めから最後までほとんど変わることがなく、踊りの輪が広がっていくことも見受けられなかった。

### 課題を踏まえ「発信する」

継承をする若い世代が東原町にいないれば踊りを継続していくことは困難であるが、人口減少を根本から解決することは難しい。そこで、東原町から三谷地区に継承範囲が拡大したことを利用し、盆踊り大会が行われる夏の休暇で帰省する若い世代が「楽しい・知りたい・面白い」そして「踊ってみたい」と思えるようなきっかけ作りを手助けする必要があると考えた。

そこで、若い世代が触れやすいSNSに適したPR動画の作成と、盆踊り大会に来た人が踊り方を確認したり、いつでも踊りを見返したりできるような動画への案内機能（二次元バーコードによる）を備えた踊り方マニュアルを作成した（マニュアルは報告書作成時点では製作中）。PR動画は盆踊り大会で撮影した記録動画を素材に、SNS投稿に対応できるよう縦長の形式で1分程度の尺に納め、かつてCD収録された音源にアレンジを加えたものを使用している。今後は以下に記すようにこれらを活用した発信と踊りの輪の拡大を図りたい。



踊り方マニュアル（イメージ図）

### 5. 今後の活動計画

冒頭で記したように、三谷文化保護協会では東原念仏おどりの上演機会を今後も増やしていく予定である。継承の担い手の範囲も東原町外に拡大していることから、初めて踊りに触れる人や盆踊り大

会で年に一回しか踊る機会がなかった人々も今後継承者となることが期待されるため、上述の動画および踊り方マニュアルを活用し、継承の一助としたい。

また、助成期間終了後も東原町との活動を継続し、後述するように今後は念仏おどりのみならず、人口が減少する中で失われていく過去の記憶の掘り起こしと継承につながるようなゼミ活動を計画している。

## 6. 活動に対する地域からの評価

集会所で東原町会長様を含めた地域の方々に活動に関してお話ししたところ、念仏おどりのことのみならず、かつての暮らしの様子や使われなくなってしまった言葉など、東原町そのものの記憶の掘り起こしに対して非常に興味を持っていただいた。

また、三谷文化保護協会の中田様からは当初より「発信」こそ不得手とするところなのでぜひやっていただきたいとお声をいただいている。今後も東原町の方々と共に、都市近郊の山間部の暮らしや歴史についての記憶を次世代に継承する活動を続けていきたい。